

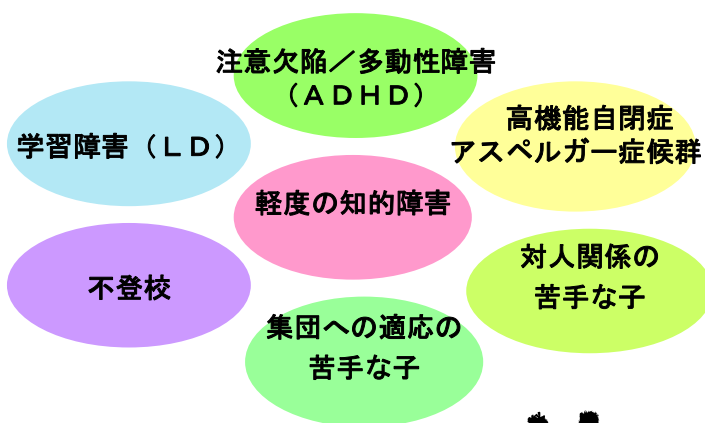
<平成 15 年度長期研修概要>

通常に学級における特別な教育的支援を必要とする児童 その理解と支援の在り方

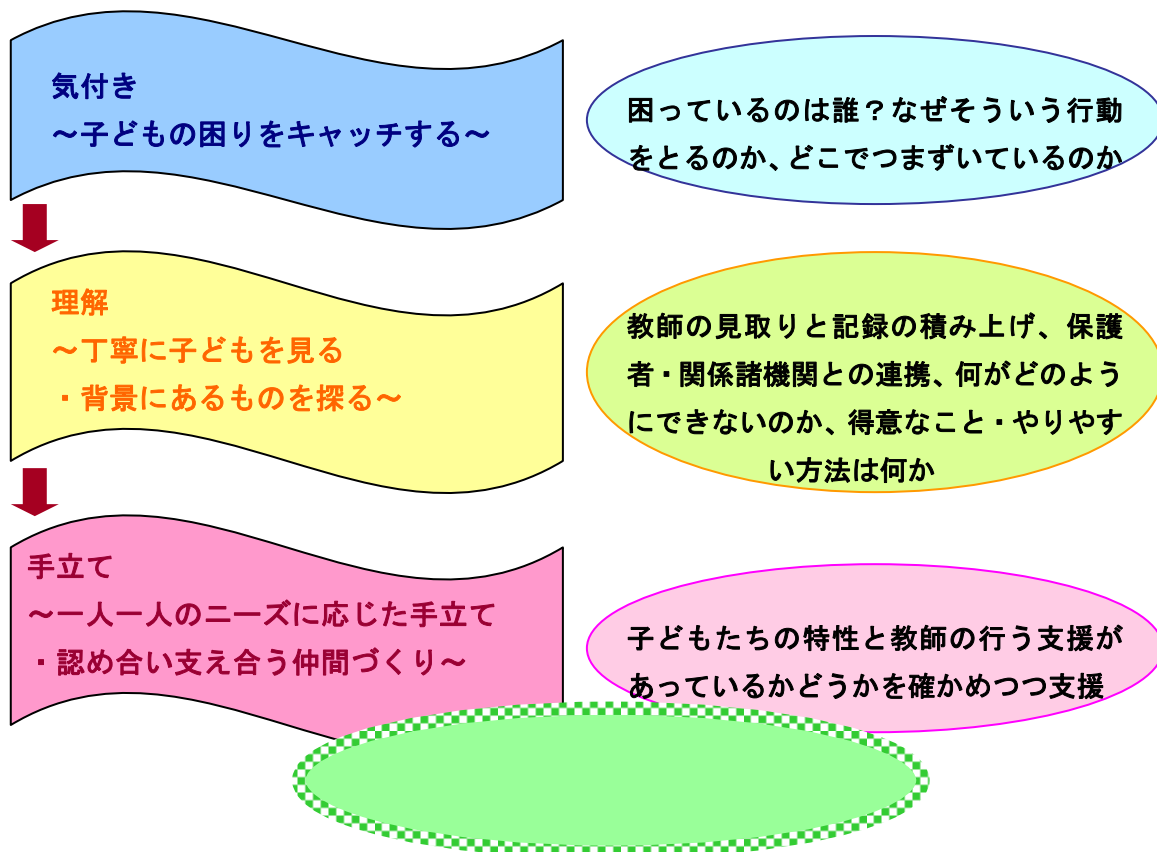
教育相談課 長期研修生 前田千鶴

通常の学級の中の「気になる子どもたち」、子どもたち一人一人の抱えている課題を正しく捉え、子どもを深く理解したい、教師の支援のあり方を探りたいと思い研修してきた。

30 人の子どもたちの前に立ち授業を進める視点から、座っている子どもの側一人一人の視点に立ち返って、学級経営や学校のあり方を見つめなおしてみた。

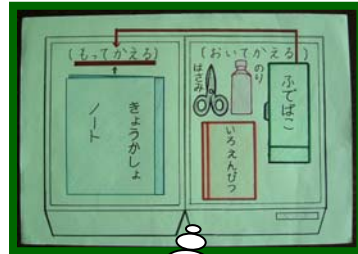


～気になる子どもたち～



気になる子どもたちへの支援の実際

見通しを与える
支援



モデルを示す
支援

ルールを明確に



個に応じた授業の工夫
学び方は一人一人違う



分かる・できる
達成感を

一人一人を認め合い支え合う仲間づくり

支援をつなぐ

～子どもを通して教師がつながる～

「～できない」ととらえるのではなく、「できる」方法を考えていく

2003年3月28日には「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」（特別支援教育の在り方に関する調査研究協力者会議）、2004年1月には「小・中学校におけるLD、ADHD、高機能自閉症の児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン（試案）」が出された。現在、「特殊教育」から「特別支援教育」への大きな転換期にある。「気になる子どもたちへの支援」は「全ての子どもたちへの支援」であると考え。一人一人をより丁寧に見つめることと、子どもたちへの支援をする者同士がしっかりとつながることの大切さを感じる。研修の成果をこれから出会う一人一人の子どもたちに返していくよう努力し続けたい。

